

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 2月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300175号
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム詩音
所在地	鹿児島県鹿屋市古前城町9番43号 (電話) 0994-44-2255
自己評価作成日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿屋市の市街地にあることから交通の便も良く、商店街や市役所、郵便局、銀行、市民交流センターなどの主要な機関がある。施設内の日常生活では、毎日の日課としてリハビリや嚙下、ラジオ体操を実施することで規則性のある生活習慣や身体機能の現状維持を図る努力とされている。施設では、共同生活を基本に、誕生会を始め季節に応じた行事を考案し、入居者同士や職員とのコミュニケーションの強化が図れるように工夫している。職員も、その人らしく生活できるように常に意識して業務に携わっている。施設外では、市のイベントである土曜日が毎週開催されたり、物産館も豊富な品揃えで開いているので、季節感を味わえるような散策をしている。また、商店街での買い物や馴染みの理容店、選挙の投票など職員と一緒にやっている。直ぐ近くには、昭和天皇が宿泊された御屋敷や四季折々の野の花が咲く楽しみな散歩コースがある。特に地域の神社で行われる七夕祭りや集落のイベントには毎年招待をいただき意欲的に参加して、地区民との交流が図れている。医療法人の運営である施設の有効性を活かして、協力病院として月2回の訪問診療や週1回の訪問看護の導入とすることで、健康管理や急変時の対応ができています。また、通院送迎の支援とすることで、安定したリハビリ実施や医療的管理による治療とできることから、病気や衰えに対しての不安が少しでも払拭とできて安心した生活が送れ、家族の負担軽減にも繋がっている。

鹿屋市中心街に立地し、近隣には大型スーパー、市役所、商店街、病院等もあり、利便性に富んだ環境である。法人は母体である医療機関とデイサービス、グループホーム等を運営して地域の医療と高齢者福祉の一端を担っている。

母体医療機関の医師による定期的な訪問診療と訪問看護ステーションとの契約による利用者の健康管理は病気の早期発見や対応など本人・家族の安心に繋がっている。

毎月、季節の花見、地域行事見学、くだもの狩り、外食等施設外行事を計画して利用者の気分転換と楽しみごとの支援に力を入れている。また、毎土曜日にすぐ近くで開催されている土曜日は散歩がてら出かけることを楽しみにしている利用者もいる。

地域との交流も管理者が毎年総会に出席し、清掃活動にも職員が積極的に参加するなどして交流に努め、利用者に地域行事への招待もある。また、ホームの災害訓練には町内放送の案内により多数の方々の参加があるなど地域との良好な関係が築かれている。

食材をふんだんに使った食事は栄養バランスも良く、来訪時に食事を一緒にしていく家族もいる。「食」が楽しめるように、利用者と共におやつを作ったり外食や手作り弁当持参の遠足、鍋料理、おせち料理、ときには縁日風にしてチケットを作り、たこ焼きや焼きそば、かき氷などを提供する工夫もしている。

年間行事計画と職員育成のための研修及び勉強会の計画が作成されており質の高いサービスの提供に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「家族」をキーワードにした理念を具体化し（個性の尊重、地域との関わり、もてる力の発揮、家族的な人間関係の保持、行政との連携）を掲げ、施設内に展示し皆で参照し、共有できている。	地域との関わりの重要性を認識して平成21年度に当時の職員の意見を集約して作成している。理念は毎朝唱和し、ときには、運営会議で確認する機会も設けて、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	uni	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶や回覧板等が届けられ、地域の情報等を訪問時や町内放送で確認できる。集落の行事や大掃除に参加し、交流を深め、商店や郵便局などの利用を行っている。	町内会に加入しており、町内放送の設置や総会への出席、清掃活動に積極的に参加するなどして交流に努めている。土曜日に行われる土曜市の見学や地区行事（七夕祭り・敬老会・十五夜等）への招待もあり、芸達者な利用者は披露する場ともなっている。近隣とは日常の挨拶や野菜のおすそ分け、回覧板等でも良好な関係が築かれている。中学生の職場体験学習の受け入れや幼稚園児との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	町内会に加入しており、町内総会や行事に参加し、施設の紹介を行ったり、施設行事への招待を行っている。中学生の職場体験の受け入れを行い、幼稚園児との交流会に参加し交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域代表、民生委員、家族、入所者代表などの参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では地域の方からの情報と呼び掛けにより地域行事に参加でき、全家族の方の参加により意見を広く聴くことができた。	町内会長・老人会代表・民生委員・家族・行政等の参加を得て2カ月に1回開催している。ホームの運営状況報告、防災対策、ときには感染症や日中のおむつゼロ支援、排便コントロールについてなどホームの取り組みを報告している。また、家族には交代で出席してもらっており、出席できない家族へは毎回ホーム便りにて報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に毎回参加し助言されたり、利用者の相談や事務手続きの際に市の担当窓口に出向いたり、電話での連携を図っている。鹿屋市市民交流センターでの行事や夏祭りなどに参加している。	市の担当者とは日頃より、連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、生活保護受給者もおおり、市役所高齢福祉課・生活保護課とも協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について月に一回勉強会を実施し、学ぶ機会をつくり、話し合いや意見を交換することで共通の理解を深めている。施設玄関前が道路である為、安全の為にタッチセンサー付きドアを使用している。	重要事項説明書に拘束について明記しており、ホームの方針として身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。安全委員会の職員を中心として毎月勉強会を行い、職員に禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解できるようにしている。玄関はタッチセンサー付きドアであるが外出しようとする利用者には散歩等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人内研修を月に一回開催し、伝達講習をして共通理解を深めている。事業所内での虐待が見過ごされる事がないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、研修報告書を作成し、伝達講習や勉強会を開催し職員間の共有を図っている。又、家族や本人の意向で関係者と協議し日常生活支援事業を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や説明書を整備し、利用者や家族より疑問点を伺いながら十分に説明を行っている。遠方や来所できない家族へは、自宅へ出向いたり、手紙や電話で説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を実施し、2ヶ月に1回の運営推進会議への参加により、全家族からの意見や要望を聞ける機会が増え、運営会などで話し合い運営に反映させている。職員は面会や電話で家族より意見や苦情を傾聴し、職員で話し合いミーティングを行っている。	日常の面会時、電話連絡時、年2回の家族会時に意見・要望を聞き出すように努めている。また、運営推進会議にも家族が交代で参加する体制が築かれており、重要事項説明書に第三者委員も明記されて外部者へ表せる機会も設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常は申し送り後に話し合い、毎週の朝礼時に意見や提案を聞き、毎月のミーティング時に施設長につなぎ対応している。申し送りノートや報告書等を使用し、全職員へ伝わるようにしている。	毎月、代表者も主席して運営会議を行っている。出された職員からの要望・提案については可能な限り実現に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や成績・勤務状況を把握できるよう、実務表、タイムカード等で上げ、職員環境等、ミーティングや運営会議で上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、法人代表による勉強会を実施し、法人内研修・テーマを決めた勉強会も職員が担当して毎月行っている。無資格者は、ヘルパー級取得に積極的に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区認知症連絡協議会に加入し、研修等に参加している。他のグループホームとの交流を深め、行事の参加や情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や施設等を訪問し、本人、家族の現状と生活歴、住環境等を把握し、確認を行っている。また、会話をもち、本人が安心してうちつけ、他の利用者、場に徐々になじめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者、計画作成担当者で面談を行い要望等を聞く機会を作っている。要望等を聞き他職員に伝え共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の要望を聞きながら、優先される支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々ができる事を把握し、利用者同士や職員と一緒に活動できるように努めると同時に、利用者から学ぶ事も多く、労いの言葉が励みになり、共に支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、状況や状態について、家族へ報告、相談等をして家族も一緒に本人を支えていく関係が築けるように、家族がサポートできることを伺い、お願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や馴染みの店等、買い物や墓参り等、家族の協力をいただきながら実施している。知人や友人などの来訪があり、馴染みの関係づくりを支援をしている。	本人の希望による友人宅訪問、図書館通い、墓参り、馴染みの店での買い物、行きつけの美容室など入居後も継続できるように支援している。また、地元の利用者もおり土曜日や地域行事に参加するなどして馴染みの人達との関係継続の支援を行っている。友人知人の訪問も多く、訪ねやすい雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットの利用者が合う機会を設ける為、レクリエーションや行事を合同でおこなっている。日常では、挨拶、会話など職員が間に入り、孤立しないように支援している。食事やお茶等、職員も一緒におこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族から連絡や、来所下さり、相談や支援に努めている。長期入院中の洗濯や退院時の受け入れなどの相談を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意思を尊重し、要望等の把握に努めている。得られた情報は、申し送り、伝達ノートにて職員は共有している。	ほとんどの利用者とは日常の会話で思いや意向を確認している。困難な際は家族の情報、表情、言動から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞きながら把握に努めたり、以前利用していた医療、福祉関係から情報をもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のできる事、活動や心身状態の維持、向上がはかれるよう把握に努め、家事、レクリエーション、運動等に参加できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意思や心身状態を職員でカンファレンスを行い介護計画の作成に努めている。月1回計画作成の受け持ち職員でモニタリングを行っている。	入居時に本人・家族の希望を聞いて本人がより良く生活できるように、家族、職員、主治医の意見を反映させ「変化が期待できる支援」「個別的な支援内容」に分けて個々に応じた介護計画を作成している。入退院や変化があれば都度見直しを行い、変化が見られなくても毎月のモニタリングと6か月ごとに定期的な見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌を記録し、実践や介護計画の見直しに活かせるよう職員が一人一人確認し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化や要望を聞きながら、その時々ニーズへ対応できるように努めている。思いや意思が伝えられない利用者には、態度や表情を把握し、家族や職員間で話し合い、介護計画の見直し支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容やボランティア等を利用し、市の図書館の利用や県民交流センターなどの朝市などを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿って、必要な医療関係での受診ができるよう努めている。月2回の訪問診療時に状態報告を行っている。緊急時は、かかりつけの医師に相談し、対応している。	法人の医師の定期的な訪問診療があり、本人、家族の安心にも繋がっている。入居前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康観察し記録している。介護職員は、身体の変化に気づいた事を看護職員へ報告、相談し、指示をもらっている。週1回の訪問看護時に看護師へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、病院関係者と情報提供や情報交換を行い、相談等を行いながら、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に対する説明書を用い、説明を行っている。重度化した場合は、早期にかかりつけ医師の診断を仰ぎ、方針を得て家族へ説明を行っている。訪看との連携もしている。	重度化や終末期に向けたホームの方針は指針を作成して入居時に説明している。入居後は身体状況に応じて医師の指示のもと家族と話し合い「看取り介護開始に関する同意書」を作成してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。これまでに看取りの経験もあり、職員も方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応の勉強会や研修を受け、実践力を身につけるように指導している。急変や事故発生時は、早急にご家族や管理者、法人への連絡体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の指導のもと、昼夜間想定で防災訓練を実施し、自主訓練も行っている。安全点検やマニュアルを作成し緊急時の職員への自動通報連絡や近隣住民への連絡や協力体制が得られている。</p>	<p>年2回の消防署指導の訓練と自主訓練も年数回夜間想定で行っている。町内放送で防災訓練の案内をしてもらって多数の近隣住民の参加も得られている。また、緊急連絡網にも地域の方が登録されている。スプリンクラー・自動通報システムも設置され、備蓄も確保されている</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について、守秘義務の指導を朝礼やミーティングで行い、日々の中で利用者に対しての声掛けや対応にも配慮がなされるよう指導している。	業務の中で気づいたら職員間で都度注意して質の向上に努めている。また、ミーティング時に利用者個々に応じた対応の仕方について職員間で話し合うこともある。マナーについての勉強会も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話の中で思いや希望を聞き自己決定できるように心がけている。意思表示の困難な入所者に対しては、表情や状態を見ながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にコミュニケーションを図り、個々の要望やペースが尊重された支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時や日々の中で、身だしなみやオシャレができるよう、施設訪問による理容や、職員との買い物で、希望の服等を購入し、季節に合わせた服の準備等を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを配慮し、郷土料理や季節の料理を献立に取り入れるよう配慮し、個々の好み等を誕生日に提供している。季節の手作り食品作りや、食材の下ごしらえ、台拭き等利用者の能力に応じ、手伝いをもらい楽しく食事をしている。	食材をふんだんに使った食事は栄養バランスも良く、ときにはおやつと一緒に作ったり、たこ焼き・焼きそば・かき氷などチケット制にして楽しんでいる。家庭菜園の収穫やつけもの、干し柿、干し大根、もちつきなども利用者に教わりながら行い、外食や弁当持参の施設外レクにも出かけて「食」が楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人健康チェック表により、水分摂取のチェックと、月1回体重測定を行っている。疾病のある入所者は、かかりつけ医の指示や助言を参考に食事形態や量、個々の嚥下状態等により小刻みやトロミ等の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の嚥下体操や毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し、時間帯での声掛けや誘導を行い、昼間はトレーニングパンツを使用している。個々の情報を共有して、自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、職員の声かけとさりげない誘導で日中は全員、トイレでの排せつを支援している。現在布パンツで自立している利用者もおり、維持できるように支援している。また、入居後に改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量をチェックし、食事の工夫や摂取の声掛け、体操の声掛けや排便習慣の誘導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	健康状態をチェックし、週3回の入浴を計画しているが、できるだけ利用者の生活パターンに添った入浴を心がけている。	基本的には週3回を目安としているが個々の身体状況や希望に沿って柔軟に支援している。自立している利用者もあり、職員の見守りで安心して入浴してもらっている。ときには、足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、休息や安心して眠れるように、個々の健康状態による緩和や眠りを遮る環境の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や臨時薬の説明書をファイルへ閉じ、全職員が確認し、把握できるようにしている。得た情報の共有や状態の変化について看護師への報告や主治医への報告を行い指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かし、できる事や習慣等を把握し、家事や掃除、買い物等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の健康状態や天気に合わせて、散歩や買い物等の外出や病院受診等の支援に努めている。季節に応じた外出や外食を計画し、墓参りや理容院など希望に添った個別の支援を家族と協力しながら行っている。	本人の希望による個別の外出や散歩・買い物・畑仕事など出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援している。また毎週、土曜日に開催される土曜日市は散歩がてら出かけており、毎週楽しみにしている利用者もいる。他にも、毎月、施設外行事を計画して季節の花見・くだもの狩り・外食・足湯・地域行事見学等いろいろなどところに出かけて楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望で、買い物時の支払いの支援や毎月のおこずかいを出納帳に記載し、所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望に応じ電話ができるように支援している。個々の能力に応じ、携帯電話使用や手紙を書かれたり、代筆をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の中で、光の調整の為にカーテンやフィルムを張り、湿度や温度を毎日チェックしエアコンや加湿器などで調整をとり、ドアの開閉時の音を防ぐためにスポンジテープを張り対応している。毎日の掃除時に空気の入れ替えや清掃を行い各部屋の整備を行っている。	共有空間は広々としており、たたみの和室スペースもある。リビングから直接ベランダに出ることが出来るため開放感がある。西日の当たる窓にはフィルムが貼られ、眩しさや刺激がないように配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個々の居心地の良い場所（日当たりの良いソファや畳室）等が有り、共有のホール等での席変えを行い、気の合う利用者同士の交流の配慮を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談し、使い慣れた家具等を持参頂き、使用できるよう支援している。テレビやラジカセ等を使用されている。	テレビ・ラジカセ・家具・机・ソファ・家族の写真や好きな芸能人のポスター、お気に入りの飾り物など家族の協力をもらいながら個別性のある居室造りがなされている。また、各居室に洗面台があり、整容の自立に向けた環境も整っている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事が維持できるように、手すりや補助器具を使用し、安全に使用できるよう、定期で点検を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない